INFORMATION

LECTURE&EVENT

劇団　展覧劇場番外公演「フェザー」

○８月10日(月)…19:30～
　11日(火)…13:30～、18:30～
○¥1000
○オオガネク　Tel06-368-9380

２０代サミット実行委員会「２０代サミット」

○８月15日(土)…14:30～22:00
　16日(日)…12:00～18:00
○２日間通しチケット¥5000
○申込み　久保田FAX0722-24-3477
※５ページに関連記事

アジア子ども地蔵盆実行委員会「アジア子ども地蔵盆」

○８月22日(土)…14:00～18:00
○無料
○多文化共生センターTel06-973-7506
※５ページに関連記事

「祈りの踊り」上映実行委員会 映画「祈りの踊り」

○８月28日(金)　DANCE 20:00
８月29日(土)　TALK 15:30　17:00　18:30
８月30日(日)　14:00　15:30　17:00
○¥1500均一
○應典院　Tel06-771-7641
28日／ダンスはギリヤークさん19:30～
29日／トークはギリヤークさん、秋田

【新入会員ご紹介】（1998年８月７日まで）

６月25日以降にご入会いただいた方々です。ありがとうございました。
○一般会員
【大阪府】
塚本あかね　大阪市城東区
山縣　文治　大阪市阿倍野区
久保田　暁　堺市
九鬼佐和子　阪南市

【奈良県】
藤本　靖恵　生駒市

以上５名

住職と紙芝居作家の東野健一さん。司会はフリーライターの大野慈美さん。
14:30～
※４ページに関連記事

劇団　うぃるす「アダルトライクチルドレン」

○９月12日(土)…19:00～
　13日(日)…13:00～、17:00
○前売り¥1000、当日¥1200
○松村　Tel030-868-1096

SGA (Student Grobal Action)「モデル国連会議」

様々な国の代表に扮して自国の立場から、各国の留学生とホットに語り合います。(５ページに関連記事)
○９月15日(火)…9:30～16:30
○無料
○南河(佐野高校)　Tel0724-59-7037

劇団　宮プロデュース「からからと…」

○９月19日(土)…15:00～、19:00～
　20日(日)…13:00～、17:00～
○¥1800
○水野　Tel06-971-9465
　小林　Tel080-23-06907

劇団　戦國ユニット・浪指南手「侍ばんばいや・妖獣異聞」

○９月22日(火)…19:00～
　23日(水)…13:30～、18:00～
○前売り¥980、当日¥1200
○瀬間　Tel06-631-0752

西本律美「フレマウトコンサート」

モダンなタイトルですが、邦楽のコンサートです。そのタイトルから

第11回寺子屋トーク 野田正彰氏に決定(タイトル未定)

第11回寺子屋トークは、京都造形芸術大学教授、精神科医の野田正彰さん。野田さんは、少年犯罪、教育、宗教、情報化社会、災害救援といった現代的なテーマを取り上げ、秀逸な視点から、鋭く今日のシステム社会を批判されています。著書は「コンピュータ新人類の研究」(大宅壮一ノンフィクション賞)「喪の途上にて」「災害救援」など多数。今回は、現代の教育システムの問題についてお話いただきます。(共催:関西こども文化協会)
○９月30日(水)18:30開会
○一般¥1000、会員¥500
※要電話予約
○寺町倶楽部事務局　Tel06-771-7641

すると、新しい邦楽の世界が見られそうです。
○10月４日(日)…14:00～
○前売り¥2000、当日¥2500
○ゆうニシモトTel0723-37-1791

劇団　UZOMUZO企画「フーガ」

○10月９日(金)…19:00～
　10日(土)…15:00～、19:00～
　11日(日)…13:30～、17:00～
○前売り¥1500、当日¥1800
○稲葉　Tel010-676-4355
　菊池　Tel030-492-7341

サリュ VOL.9　應典院寺町倶楽部のニューズレター

発行日　1998年８月７日（偶数月発行）
編集長　金下玲子
編集スタッフ　秋田光彦、池野　亮

発行所　應典院寺町倶楽部
〒543-0076大阪市天王寺区下寺町1-1-27
TEL06-771-7641
FAX06-770-3147

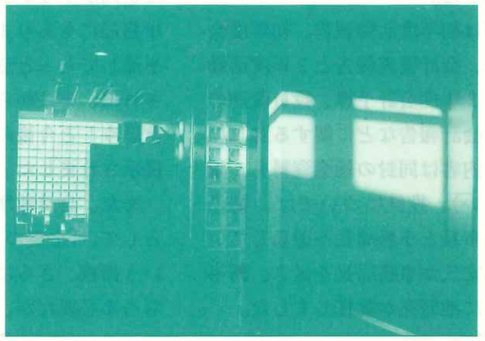
應典院寺町倶楽部のニューズレター

Salut

［サリュ］
フランス語で救いの意

1998 AUGUST
vol.9



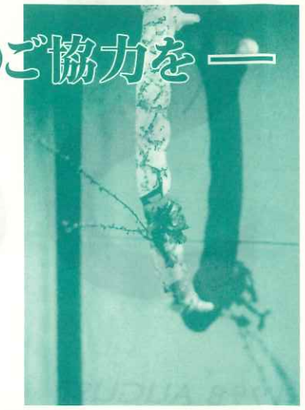
ちょっとのぞいてみてごらん

用事もないのに應典院に来たことは無かったなあ、とふと思いました。賑やかな應典院、静かな應典院、昼間の、夜の應典院。いろんな場面や人を知っているつもりになっていたけれど、いつも「理由」があって寺町倶楽部やここに関わってきた私。ふらっとここに来る私はどんな気持ちの私だろう。その時見えるこの場、人たちはどんなだろう。私にとっての２年目の寺町倶楽部はこんな感じで始まっています。

もっとのぞいてみてごらん

2年度総会開催

― 倶楽部の充実に向けて、一層のご協力を ―



寺町倶楽部の2年度総会を7月15日に開催しました。出席は14人とやや少なめでしたが、日頃聴くことができない厳しいご意見、ご提案などをいただきました。また、池野亮新事務局長が就任、会員のみなさんにより近い事務局、充実した寺町倶楽部をめざします。みなさんのさまざまなかたちの関わりと、ご協力、ご理解を今年もお願いします。

應典院寺町倶楽部の2年度総会を7月15日、應典院で開催しました。出席は田村精造理事長始め14人、総会に対する委任状は104で、議事を進めました。

田村理事長はあいさつの中で「多くの火が灯ることによって大きな力になる」「みなさんに（寺町倶楽部を）ＰＲしてもらい、また智恵を借りて内容のある倶楽部にしたい」と話されました。應典院や寺町倶楽部が目指すところを再確認させられる言葉でした。

議事は初年度活動報告、初年度会計報告、会計監査報告と2年度活動事業、2年度会計予算、役員改選の検討（会計報告などに関する詳しい詳しい内容は同封の総会資料をご覧ください）。役員については、初年度副理事長と事務局長を兼務していた西島宏氏が事務局長を退き、新事務局長に池野亮が就任しました。

過渡期にある寺町倶楽部 －初年度の感想から

出席者からは、一年を通した感想やご提案もいくつかいただきました。

まず寺子屋トークに関して「内容や目標が高尚すぎるのではないか」という意見が出されました。各回ばらつきはありますが、寺子屋トークの会員参加率を見ても、会員の方々に来ていただくということを意識した企画が少なかったという反省が、事務局にもあります。「交流会などを通してもっと意見を聞くことができれば、そこから作り上げていけると思う」と今後の運営へのヒントも提示されました。

また、会員数増加に向けての感想として、「会費の割高感はある」という指摘、さらに「継続のＰＲはもちろん必要だが、新規会員獲得に対する方策も必要」という意見も。



「いろんな人が集まっている」という印象と「目的がはっきりしている訳ではないので捉えどころがない」という戸惑いも感じられました。そんな中で聞かれた「人のつながり、心のつながりでやっている（寺町倶楽部のような）会も潰してはいけないのかなと思う」という言葉が、過渡期にある倶楽部を支えているように思われました。

■役員人事（敬称略、※印は新任）

・理事長	田村　精造	（賛助会員：パドマ幼稚園後援会会長）		三好　宏明	（学生会員）
・副理事長	西島　　宏	（一般会員：應典院プロジェクト）		吉崎　　中	（一般会員：應典院プロジェクト）
	三原　敏彰	（一般会員：パドマ幼稚園ＰＴＡ会長）	・監　査	扇谷　順介	（賛助会員：應典院総代）
・理　事	川口　圭子	（一般会員）		志野　義治	（賛助会員：應典院総代）
	栗本　智代	（法人会員：大阪ガスエネルギー文化研究所）	・参　与	秋田　光茂	（大蓮寺住職）
	北　達一郎	（一般会員）		秋田　光彦	（賛助会員：應典院住職）
	名畑　　孝	（一般会員）	・事務局長	※池野　亮	（應典院プロジェクト）

新事務局長に聞く2年度の事業計画

池野新事務局長は、初年度は事務局員として実務面を支えた倶楽部の「縁の下の力持ち」のような存在で、一番会員の顔が見えている人。2年度の事業計画のポイントや会員のみなさんへのメッセージを聞いてみました。（聞き手：金下）

メインはサポート事業

――では、事務局長としての抱負を

西島前事務局長は、立ち上がりの1年で、とても大変だったろうと思います。ありがとうございました。

事務局長として目標にしたいことは、第一に会員のみなさんの参加、交流です。これからの1年は、寺町倶楽部の今後の方向性を考える大切な1年となるでしょう。会員のみなさんの声を聞きながら、みなさんと一緒に寺町倶楽部の形を作っていけたらと思います。

――会員の声が一番届きやすいところにいる池野さんに期待します。ところで、2年度の事業計画についてお話ください。

私がメインに考えているのは、「市民活動サポート事業」。これは、市民活動に取り組む（寺町倶楽部）会員の所属する団体の活動を支援しようというもので、具体的には、協力金や会場提供、事務局運営という形になります。3～5つの団体に、1～2年間と考えています。今年度は準備・公募期間にあてて、事業の開始は来年度以降になります。

また、団体の活動状況を公開し、会員が参加しやすい機会を設けて、倶楽部のネットワーク事業としても確立していきたいです。一つのプロジェクトが始動することで、人が集まり、動き出すという効果も期待しています。寺町倶楽部が市民活動をサポートしているということを上手に広報していくことも大きな意味がありますね。

さまざまな交流の場つくりたい

――これから一年だけでなく、長期的な意味でも、大きな意味のある事業ですね。先程、会員の交流を大事にしたいということをおっしゃいましたが、その点は…

昨年、交流事業や交流の場づくりができなかったことは大きな反省です。そこで、今年度は定期交流会として・納涼会（8／7に開催済み）・



忘年会（12／26）・夜桜会（来春）を企画しました。

定期交流会の他にも随時交流の場は設けたいと思っています。これは、事務局が考えるのではなく、みなさんからやりたいことを持ち込んでいただきたい。例えば、ミカン狩りでも、魚釣りでも、また何かの学習会でもＯＫです。いつも事務局にいる私が事務局長になったのですから、この特長を生かしたい。会員の方にに突然お電話して、ご意見うかがうこともあるかもかもしれませんよ。

――会員に身近に感じてもらえる事務局を目指しましょう。

この他主催事業や共催事業、おなじみの寺子屋トークなど、多彩な事業を計画しています。2年度事業の全容は別紙をご覧ください。また、ご意見、ご要望もお寄せください。

EVENT REPORT

■第10回寺子屋トーク

7月2日、第10回の寺子屋トークを開催しました。講師は、前京都大学霊長類研究所所長・久保田競さんで、講題は「子どもの心と脳を育てる」。

教育現場では、「心の教育」が早急の課題とされる今日、久保田さんは大脳生理学者の立場から、数々の研究事例を踏まえ、脳の発達と心の発達の相関関係について、わかりやすくお話しいただきました。脳の健全な発達を考えた乳幼児期の環境づくり、適切な刺激こそが、子どもの将来の豊かな心の成長につながると。

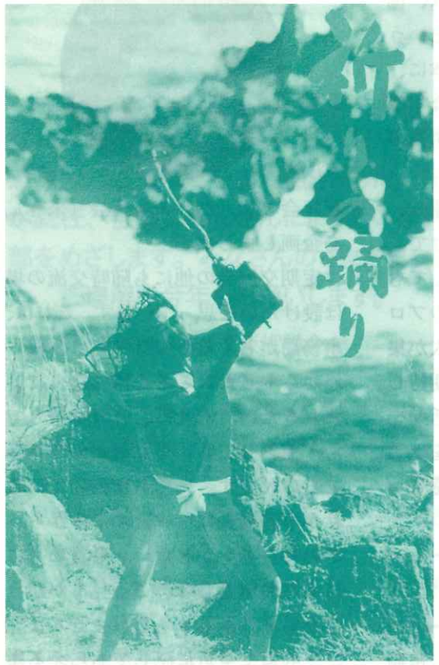
「子育てに対し自信を持つために、母親として何をすべきか、自分自身の課題が少し見えたような気がします」、「知的なことに目を奪われがちな今、やはり心を大切にした子育てこそが大切ですね」とは参加者の声。参加者76人。

次回の寺子屋トークは9月30日です（詳細は6ページ）。

寺町倶楽部共催事業

路上の夢を追いかけて……、大道芸人の魂の叫びが胸を打つ！

ギリヤーク尼ヶ崎　映画「祈りの踊り」上映会



世界の街頭で踊って30年、その独特の舞踏から「鬼の踊り」と呼ばれる、ギリヤーク尼ヶ崎さんの大道芸。日本国内はもちろん、アメリカ、中国など世界各国で喝采を得たその踊りが、このたび初の記録映画となって、８月28日から３日間應典院でロードショー公開されることとなりました(寺町倶楽部共催事業)。

ギリヤークさんは、昭和43年から全国の巡業を開始、青空公演と自ら名づけた路上のパフォーマンスは以来30年の長きにわたって演じられてきました。幕やセットがあるわけではない、ただ路上にチョークで描かれた円弧が、ギリヤークさんの舞台。行きずりの観客からの投げ銭が、１日10万円も集まることもあるとか。長年、東京・杉並のアパートで同居していた老母を先年亡くして、つつましい独居生活を続けています。路上にこだわって30年－ギリヤークさんの芸人魂は改めて芸を売って生きることの意味を問いかけます。

代表作の「じょんがら一代」は盲目、放浪の門付け芸人の心情がテーマ。杖を頼りの静寂が、一転バチをたたきつける激情に変わり、むき出しの細い毛ずねが躍動します。「津軽民謡じょんがらに引かれるのは、その泥くささ、地を打つようなバチさばきに、大道芸人としての生き方が重なるから」とギリヤークさん。もうひとつの名作「念仏じょんがら」とともに、老舞踏家が描く情念の世界は、言葉を超えて見る者の胸を打ちます。

鬼の踊りから祈りの踊りへ

しかし、全身を打ちつける激しい踊りのため、67歳のギリヤークさんの肉体は今やガタガタ。「元気に踊れるうちに自分の生きざまを残しておきたい」と、葬式代に残していた100万円を元金に、映画撮影が始まった。撮影スタッフも、ギリヤークさんの熱意に応えてボランティアで参加。北海道から福岡まで、全国を１年かけて撮影して、この４月完成しました。

この映画は、阪神大震災の犠牲者に捧げられており、初の試写会も神戸・長田の路上で実施されました。「震災は私に踊りの何たるかを教えてくれた。これからは、震災の犠牲者のために、踊りで『祈り』を捧げたい」。「鬼の踊り」から「祈りの踊り」へと、大きく移り変わる舞踏家の、老熟した魂にふれる、傑作です。

（製作・監督・編集／ギリヤーク尼ヶ崎・16ミリカラー・70分）※詳しいスケジュールは６Ｐ

VOICE

今回のVOICEは、会員になったばかりの久保田暁さん。堺市議会の若手議員として活躍中の彼に、今の熱い思いを語っていただきました。

お寺らしからぬところがお寺らしい

「おもしろい住職のいる、変わったお寺があるんやけど行ってみる？」今年の２月、友人に誘われたのが、そもそものはじまりでした。どうおもしろいのか、どう変わっているのか、実際に自分の目で確かめたかった私は、案内されて驚きました。「なんやねん、ここは！」明らかにお寺には見えない外観。この違和感が不思議と新鮮で、心地よかったりするのです。なんで？

住職いわく「昔のお寺は、町の人にとって癒されたり、何かを創造する空間だった。そんな本来の機能を取り戻したい」……。いわゆる「お寺」らしくないことが、「お寺」らしいのだろう。何かピンとくるものがありました。

出会いの場としての應典院

「人はあなたに出会って私になる」。パンフレットに書いているこのコピーを見た時、自分のやっていることが見事に言葉になっている、と思いました。

社会の中で夢を持って生きる人をひとりでも多く増やすことが、私の夢の一つであり、趣味でもあります。今、私が力を注いでいるのは、出会いの場の提供。人は人に出会うことで変われます。自分を変えるささいなきっかけは、すばらしい出会いの中にこそ転がっているはずです。

98年夏、應典院から何かがはじまる

８月15、16日、様々な夢を持った若者が、全国から應典院に結集します。名付けて“20代サミット”。テーマは、「そうぞう」（騒々、想像、創造）しい全国の熱い20代のお祭り。そこには、素晴らしい出会いがたくさんあり、きっと数々の「何か」がはじまります。

秋田住職発

應典院掲示板

早いもので、もうお盆がやってきました。お盆はご先祖さまがあの世からおかえりになる仏教の年中行事。恒例の民族大移動もあって、日本人の一大イベントでもあります。

イベントといえば、近頃、應典院で出会った人たちとジョイントの企画がいくつか立ち上がっています。高校生も、アジアの友だちも、この場所にふれて芯になるものが、ひとつひとつ具体化しているようです。

夏のお盆、ご先祖さまもごいっしょに、楽しいひとときがつくり出せたらいいな、と思っています。　（彦）

※各催しのスケジュールは、６Ｐのインフォメーションをご覧ください。

8/22アジア子ども地蔵盆で〈共生〉を体験する！

お盆といえば、盆踊りというくらい、日本の夏の定番ですが、これをアジア・バージョンで企画したのが、「アジア子ども地蔵盆」。多文化共生センター他いくつかのＮＧＯといっしょに、８月22日に開催します。

盆踊りは、もともと踊り念仏を出自とし、新盆の家々の御霊を慰め、あの世へ送り返すため踊ったのが始まりとか。阿波踊りとかねぶたとか、日本の夏の踊りは、何らかのかたちで盆踊りを継承しているといってよろしい。

実は今年の４月に、「アジア花まつり（お釈迦さまの誕生会）」を企画、にもかかわらず止むなく中止なってしまった経緯があって、捲土重来、花まつりを盆おどりに変えて実現することとなりました。地蔵盆は日本だけのオリジナルな行事ですが、提灯や太鼓、浴衣…アジア共通の、仏教的な風物がここでも見られます。仏さまやお寺から、アジア的共感を受けることって、珍しくありませんものね。

当日は、親子で提灯づくり（予約制）やアジアのおもちゃ、音楽を体験、ぼくの地蔵盆のお話にアジアの紙芝居の上演もあります。また、アジアの子どもたちに絵本を送るキャンペーンも実施します（不用になった古本ください）。国や文化の違いを受入れながら、互いが共生できる体験を、お寺の地蔵盆で感じてもらえたらうれしいな、と思います。



多文化共生センターは、在住外国人を対象に、生活を視点に現実な活動を続けてきた、関西を代表するＮＧＯ。大阪で暮らすアジアや南米の人たちに、10言語の電話相談、緊急インフォメーション（震災やエイズ、Ｏ-157等々）の提供や日本語教室の開設など、共生社会を文字通り具現するチームです。

（應典院主催事業）

9/15高校生たちのモデル国連



高校生たちのモデル国連の企画を聞いたのは、仲よしの市立中央青年センターのＨさんから。

打ち合わせで初めて会った高校生は、府立高校の国際教養科の生徒さんたち。ほとんど交流の機会のない10代ですが、その意識の高さは頼もしい限りでした。

モデル国連とは、参加者がいろいろな国の代表に扮して自国の立場から議論しあうもので、今回のテーマは「子どもの権利」。各国の留学生と一緒に、10代がホットに語り合います。

講演あり、ディスカッションあり、ワークショップあり…半分は英語で行われます。高校生のあなたも、高校生の子どもを持つお父さん、お母さんにも、ぜひ参加していただきたいイベントです。

（應典院協力事業）

8/15.16 元気な２０代サミットで、次の時代を創造する！

最近、應典院には演劇青年のみならず、さまざまな元気な若者たちが登場、中年住職も時々仲間に入れてもらっては、エネルギーをいただいています。若者たちが扱うテーマも幅広く、環境、教育、芸術、政治…と多種多様。尽きることのない関心と、すばらしい行動力は、うらやましい限りですが、今回の「20代サミット」も、若い友だちとのご縁からできた企画です。

昨年から始まったこの企画、全国のイキのいい20代が集まって、政治、経済、文化の垣根を取っ払ったところで、横断的なネットワークを試みようというもの。同時に、多様な20代がクロスすることで、世界を動かす大きなパワーを生み出そうという遠大な企画、ぼくの手前勝手な解釈では「應典院20代版（？）」と呼ぶにふさわしい内容だと思います。

－「20代は社会に出る前、もしくは社会に出て間もない頃であるからこそ理想や夢を語り、理想や夢でつながれる世代です。未来のリーダーが早いうちに仲間になれば、将来的に人類共通の課題に対して、あらゆる場面で協力関係を結べるのではないでしょうか」（企画趣旨より抜粋）

８月15・16両日、行われるサミットは全国から200人の20代が集合、「全国対抗そうぞうしいエリア別選手権」「夢食い人種の逆襲！」「地球防衛軍参上！」等々、若者らしくシャレたタイトルのプログラムをラインナップ。中身は、それぞれ各地でネットワーク活動を仕掛ける20代や、創造的な自由業に生きる20代、環境問題に取り組む20代、さらに弁護士、議員、ＮＧＯ等々、時代を見つめ、しっかり自分を主張する硬派が語りあうものになりそうです。

もちろん夜は、若者らしくライブとダンスのコンサート。お寺ではお盆だというのに、「そうぞうしい」（騒々・創造・想像をかけあわせた言葉だそうです）20代が、何を仕出かすのか、大きな期待で見守りたいと思います。

（應典院協力事業）